

令和7年度第6回地域課題協議部会 記録

日時：令和7年9月10日（水）10:00～12:00

会場：国立市役所3階会議室

出席者：みなも、福祉サポートライン、エプシロン、なびい、たまぶらねっと、ハッピーテラス
国立駅前、猫日和、ともに一サポート、しょうがいしゃ支援課

事務局整理（前回までの振り返り）

- ・部会として「目的・対象・方法・期間・参加者」を整理し、WGに落とした方がよい
- ・目的については、スクリーニング表の大項目では範囲が広がるので、小項目から考えるべき
- ・小項目の選出については「メンバーがモチベーションを持てること」「興味・関心のあること」がよいのでは

議題

- ・「理解・差別解消WG」について、上記5項目を整理する
（「ヘルパーの魅力発信」については、メンバーのサプラが今回欠席の為次回協議する）

議論・決定事項

①目的

<小項目・大項目の考え方についての意見>

- ・スクリーニング表の①～⑥をそのまま小項目とし、その中から取り組むものを選出する
- ・取り組む項目については「事業者に向けた問いかけをする」というところまで視野に入りたい
- ・ゴールをイメージして項目を考えた方がよい（研修やイベント開催、企業との面談等）
- ・全障害に共通する項目の方がよい
- ・主な取り組みを「リサーチ」にするのか「リサーチから解決方法の提案・実施」までにするのかによって項目の範囲は異なる
- ・スクリーニング表は事例であり、それを地域課題としてとらえると「居住」「交通」などの分け方もできるのでは
- ・スクリーニング表①の作業所工賃については、就労分野の問題と捉え、別の機会に検討した方がよい
- ・交通については、国立市地域公共交通機関協議会を通じての情報共有も可能
- ・「理解・差別解消」の取り組みには啓蒙も重要目的であるが、方法や対象が広すぎると収拾がつかなくなる。対象を絞って取り組んだ方がよい
- ・WGが取り組んだ結果をモニタリングできる内容がよい
- ・対象が狭い方が取り組みの進みが速く、メンバーのモチベーションにも繋がる
- ・市内当事者の困りごととしては、利用頻度の高いバス利用時が多いのではないかと

<結論>

「バス会社に対して、しょうがい児者や差別解消に対する理解を促す」

②対象：当事者・家族・支援者とバス会社

③方法：困りごとを集約し、バス会社と話し合う

<困りごとの集約方法>

- ・WGメンバーが事業所利用者や知り合い等から聞き取りを行う
- ・意見を聴く会を開く
- ・市報を利用したアンケート調査
 - web アンケートなら回答しやすいが、回答者の範囲設定等は難しい
 - 11/20 号の市報に掲載するには内容を早急に決める必要がある。アンケートの形態も含めて考えると間に合わないと思われるので、12/5 号掲載の予定で進めるのが現実的。次回部会（10/15）で決める

④WGメンバー：当事者（身体・精神・知的各2名ずつ）

- ・部会メンバーが選定（サポートライン：身体・たまぷらねっと：精神・ともにー：知的）
- ・知的当事者については軽度と重度両方参加できると良い。本人のみではコミュニケーションに限度があるので、家族や支援者等の代理人も必要と思われる
- ・選定条件は、バスを利用して困った経験がある人
- ・当事者メンバーの負担が大きくなりすぎないように、まずは意見を述べてもらうことを目的として参加していただく

⑤今後の予定

- ・次回部会（10/15）までに当事者メンバーを選定
- ・次回部会で市報に掲載するアンケート内容決定
- ・第1回WG：11月。参加メンバーの足並み揃え。メンバーの役割や今後の予定の確認など
- ・第2回WG：2月頃。アンケート結果、メンバーの集めた事例をどのように集約していくか検討
- ・その後、バス会社とどのような話し合いを持つかの検討を重ね、来年10月くらいに話し合い実現をめざす

次回部会での協議予定

- ・「2.ヘルパーの魅力発信」WGについて「目的・対象・方法・期間・参加者」を整理する
- ・今後の部会の開催頻度について検討
- ・10/21全体会に報告する準備（発表者：ハッピーテラス国立駅前）